

〔書言字考節用集八言辭ウツノコト〕綴五ウツノコト圍碁ウツノコト所レ言、出二

〔圍碁四角鈔〕碁之詞字

綴五ウツノコト

〔類聚名物考 人事七〕らんご

亂碁歟

思ふに、今も童子の戯に、亂碁として白石のみにて打四ッ目殺しといふことなす事有り、

〔嬉遊笑覽四雜伎〕享保中の板にて、智惠較と云ものあり、四ッ目總どり碁と云あり、これ名物考にいへるものなるべし、

〔邯鄲亦寢夢五〕盤面遊曲集

目碁尤白石共いふ、碁盤四分一の片隅目の内にて打なり、

此打方、白ばかり兩方共に縦ば三十目宛手に持先手後手定おき、先の方より何れの處へも一手打、浮手の方より其先手の石につけて打也、又其石に付段々付て打、四ッ目に成時は打て取也、打て取、被取打、行末に至り繪圖の略○圖如く目碁の形に自成也、其時手に殘る石多キ方、何目勝と知る也、工夫もの能々勘辨有べし、

〔如蘭社話十〕格五新譜

土井有恪故人

原名第一

格五之名見漢書吾邱壽王傳、蘇林孟康劉德及顏師古各有訓釋、迄今讀之、瞠不知其何戲、本邦是戲五而格之、就實求名、不甚相遠、故借以命之、戲之同異、則所未審也、世俗稱伊都都那良邊、妄人字之曰五聯、要乖雅馴、往年土佐間崎生嗜此戲、寄詩曰、五石驚人定幾場、此本公羊有是字面、姑取供使用、非指而名之、不知何者傳播、遂如爲定稱者、今就漢文改定、以俟後之識者正之、

式例第二